

令和5年不動産鑑定士試験論文式試験

会計学(問題) { 満点100点  
時間2時間(10時~12時) }

[注意事項]

- 1 問題用紙及び解答用紙は、係官の指示があるまで開けてはいけません。
- 2 これは、問題用紙です。解答は、解答用紙に書いてください。
- 3 問題用紙は表紙を含めて3ページ、解答用紙は表紙を含めて3ページです。
- 4 解答は、解答用紙の所定の欄に、黒若しくは青のボールペン又は万年筆で丁寧に書いてください。鉛筆等で書くと無効となります。
- 5 答案の下書きは、問題用紙の余白部分を利用してください。
- 6 問題用紙は、本科目終了後、持ち帰っても構いません。

\* この問題は、令和4年9月1日時点で施行されている法令及び諸規程により出題しています。

問題1 (50点)

次の文章は、企業会計基準第9号「棚卸資産の評価に関する会計基準」(以下この問題において「本会計基準」という。)からの抜粋である。これに関連して、以下の各問に答えなさい。

3. 本会計基準は、すべての企業における棚卸資産の評価方法、評価基準及び開示について適用する。棚卸資産は、商品、製品、、原材料、等の資産であり、企業がその営業目的を達成するために所有し、かつ、売却を予定する資産のほか、売却を予定しない資産であっても、販売活動及び活動において短期間に消費される事務用等も含まれる。

なお、売却には、通常の販売のほか、活発なが存在することを前提として、棚卸資産の保有者が単に価格の変動により利益を得ることを目的とするトレーディングを含む。

- (1) 文中の空欄からまでに入る適切な語句を答えなさい。
- (2) 次の①から⑤のうち、企業会計原則注解(注21)(1)において棚卸資産の評価方法として示されておらず、本会計基準においても棚卸資産の評価方法として定められていない方法はどれか、一つを選び番号で答えなさい。
- ① 先入先出法
  - ② 最終仕入原価法
  - ③ 平均原価法
  - ④ 売価還元法
  - ⑤ 個別法
- (3) 本会計基準において、選択できる評価方法から削除された後入先出法について説明し、また、その削除の理由についても答えなさい。
- (4) 期末に簿価を切下げた後の棚卸資産の会計処理法として、洗い替え方式と切放し方式がある。それぞれの会計処理法について答えなさい。
- (5) トレーディングを目的として保有する棚卸資産の期末評価について、①適用される評価基準が価格に基づく理由及び②会計処理方法をそれぞれ簡潔に述べなさい。

問題2 (50点)

次の文章は、企業会計基準第18号「資産除去債務に関する会計基準」(以下この問題において「本会計基準」という。)からの抜粋である。これに関連して、以下の各問に答えなさい。

6. 資産除去債務はそれが発生したときに、有形固定資産の除去に要する割引前の将来キャッシュ・フローを見積り、割引後の金額(割引価値)で算定する。

(1) 割引前の将来キャッシュ・フローは、合理的で説明可能な仮定及び予測に基づく自己の  による。その見積金額は、生起する可能性の最も高い  の金額又は生起し得る複数の将来キャッシュ・フローをそれぞれの  で加重平均した金額とする。将来キャッシュ・フローには、有形固定資産の除去に係る作業のために直接要する支出のほか、処分に至るまでの支出(例えば、保管や管理のための支出)も含める。

(2) 割引率は、 を反映した無リスクの税引前の利率とする。

7. 資産除去債務に対応する除去費用は、資産除去債務を負債として計上した時に、当該負債の計上額と同額を、関連する有形固定資産の  に加える。

(略)

9. 時の経過による資産除去債務の調整額は、その発生時の費用として処理する。当該調整額は、期首の負債の  に当初負債計上時の割引率を乗じて算定する。

(1) 文中の空欄  から  までに入る適切な語句を答えなさい。

(2) 資産除去債務の会計処理に関して、次の問に答えなさい。

- ① 下線部に関して、資産除去債務はどのようなときに発生するか、簡潔に答えなさい。
- ② 有形固定資産の「除去」の意義及びその具体的な態様について、答えなさい。
- ③ 本会計基準第7項で説明される会計処理は、(a) 何と呼ばれますか、また、(b) この方法が採用された根拠について、答えなさい。
- ④ 資産除去債務の会計処理は、上記③(a)と「引当金処理」の2通りを考えることができる。「引当金処理」の意義とその問題点について、説明しなさい。
- ⑤ 資産除去債務の算定に無リスクの割引率が採用される理由について、説明しなさい。